

シシトウ



育苗

播種後2週間、本葉2枚が揃って展開を始めたらポットに移植。(鉢上げ)
この鉢土と、移植後、定期的に根っ酵素液で根を強くし、また、その間(交互に)Ca液で厚く締め、健苗を作る。

※水をやりすぎて徒長させないように注意。
※もし根が良くて葉色がさめた時(肥切れ)は、メガデルトン・ネオスリー800倍を葉上から散布。

▶ ※播種床は 無肥料のクン炭などを使った培養土。
※育苗鉢土には 半量程度の畑土と、立米当り魚粕など3kg、畑の大将<青> 3kgを加えて混ぜる。

●根っ酵素 最初1000倍液 あと500倍液

※鉢上げ前日、鉢土を酵素入りでタップリ湿らす。
※以後、1週間おきに葉上から鉢土までタップリと散布。
※鉢をずらしたら、その日に酵素液を散布、根を動かす。

●花咲くCa液(最初1000倍)あと500倍

※酵素液の4日後くらいに 葉上からタップリ散布。
※定植5日前に散布して、苗を充実させる。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
地力作り	なるべく早く(定植1ヶ月前迄に)、右記の資材を同時に投入し、なるべく深く耕して土層全体を均一しておく ※畑全体の深い地力で、深根を張らせることが大事。ウネ上だけの施肥は根を狭めるので、よくない	●ラクトバチルス600g →排水よく、肥沃な土に。 ●堆肥2トン以上(なるべく多く) ●硫安80kg(N:16~25kg) ※長期・多収をねらう場合、堆肥を多くし硫安も100kg程とする いづれにしても、定植時には土壌EC:0.2程度と落ち着いていることが必要。 ※土層全体が(深くまで)土壌pH:6.0~6.5となるように、もし土が酸性(pH:6.0以下)の場合は、畑の大将<青> 60kg程を、地力作り時にも投入。
整地・ウネ立て時	雨後または灌水後、全面に散布してウネ立てする。ウネ上への散布より、なるべく全面に散布	●畑の大将<青> 60kg →健全化、花実の促進。 ●マンゾク粒状50kg →青枯れ・疫病対策。 ※定植一週間前迄にポリ・マルチを張り、地温を20℃以上に。
本葉12枚頃 定植時 及び定植後 1ヶ月間	定植前日に 苗にタップリ灌水、または定植時ドブ漬け、定植後の手灌水に酵素液を使用 定植以降は原則として灌水しない(少々のシオレは問題がない)	●根っ酵素500倍液 →根張りとし生長を促進。 ※定植時に必ず使用する。 ※以後、もし生長が停滞し、枝が伸びずに枝先まで花が開いたら、摘果や酵素液の葉面散布を。それでも回復しなければ酵素液の灌水(3ℓ程度)を行う。
収穫開始後	灌水または 追肥 ※収穫期間は週1~2回灌水 通路(ウネ下)に穴を掘ってフタをしておき、下層10cmほどの土壌水分を見て、過乾燥(辛味果の増加)にならないようにする。なお、この穴は根の状態を見るためにも大切 ※下層土まで pH:6.0~6.5、EC:0.2(施肥後0.4)で安定しているように	【チューブ灌水の場合】 ●アミノ酸液 10~20ℓ 毎週灌水 ※なおこの場合、花咲くCa液500倍の葉面散布や、2~5ℓの灌水を交互に行う。 ※チューブ灌水は右記3種の ▶ ①根っ酵素2ℓ (③の7日後) ローテーションが効果的 ②アミノ酸液10ℓ (①の4日後) ③花咲くCa液3ℓ (②の4日後) 【追肥の場合】ウネ肩・通路に追肥 ●硫安20kg+畑の大将<青> 20kg 毎月追肥 ※この場合、根っ酵素液、花咲くCa液各500倍の葉面散布を、1週間ごと交互に行くと効果的。
全期間の生育調節	右記2種の葉面散布(または灌水)を、適宜交互に行って、生長をコントロールする	●根っ酵素500倍液 →根を強く働かせ、生長促進。 ●花咲くCa液500倍 →受精を促進し、石果や変形果が出ない。また種子が詰まり、辛味果にならずに果実が揃って肥大し、果柄が折れにくくなる。